

細川候補選挙事務所へ

短期決戦に追い込みを掛けておられるみなさんの健闘を称えます。「あと一步」の訴え掛けに、得票を左右する次の緊急提案をいたします。ぜひご検討をお願いします。

緊急提案

「**原発ゼロ**」と「**平和な長寿社会**」が日本の誇り —これが今回都知事選の国際的、歴史的使命—

新聞社の調査によれば細川護熙候補が主たる争点に掲げる「原発ゼロ」は、①景気・雇用、②医療・福祉問題に次いで第三位です。わが国の将来の姿への分かれ道である「原発ゼロ社会」の担い手の核になるとともに、①②にかかわりながら「平和な長寿社会」（成熟社会）を実現する芯になる高齢者（安倍政権は若者と女性の成長力のみ）に訴えることで、都民の関心はグンと上がると思います。私たちは争点の外に置かれているが、今世紀の国際的潮流である「高齢社会の達成」を政策に掲げることを提案いたします。「**原発ゼロ**」と「**平和な長寿社会**」によって、この国は世界に誇れる先進国になれると確信するからです。候補のうち細川候補に最も実現への期待が持てるからです。

「地球丸ごと高齢化」という世界で最速のスピードで高齢化を遂げている日本では、人口1億2800万人のうち65歳以上の高齢者は約3200万人に達しています。実に4人に1人が高齢者です。しかし、これまで高齢者といわれる人びとは行政の対象としては「支えられる弱者」と位置づけられ、医療・介護・福祉のあり方に注意がはかれてきました。確かにそうした「社会保障」対策の対象としてのお年寄りが増えていることは事実です。そして東京都内の「孤独死」が、区によっては500人を超えるという恐るべき現実がそこにあります。

一方、65歳になってもまだまだ元気で、定年を迎えてももうひと仕事ができるという「知識・技術・資産」を備えた「元気な高齢者」が増えていることも事実です。これらの「支える側の現役シニア」の人びとは、生き甲斐のために社会貢献を求め、少子化で成長力の衰えた国を支える潜在力を持っています。これまで国が膨大な予算を使って医療・介護・福祉・年金という「**高齢者対策**」の対象としてきた人びと（2割）に代わって、「人生90年時代」を体現する「元気な高齢者」（8割）が国づくりの担い手として登場してきている現実もあるのです。

細川候補は「原発ゼロ社会」を実現するためにも「**高齢社会対策**」を掲げてこれらの元気な高齢者層の活用を考えて欲しいのです。これらの世代は「モノ、サービス、居場所、しくみ」をつくり維持する知識と技術と、平和な国を支える心を持っています。若者、女性に高齢者を加えて、すべての世代が持つ力と心を持ち寄って、豊かで平和で安心な日本をつくり上げて行きましょう。首都・国際都市東京を拠点として日本再建のモデルづくりの先頭に立っていただくことを期待します。それが今、日本に生きるわれわれの心からの願いであり国際的、歴史的使命にも連なると思うからです。

（私たちはいま高連協—高齢社会NGO連携協議会—のメンバーとして、「日本高齢社会」達成の活動に参加しています。元財務相の藤井裕久先生や野田元首相にも訴えています。） 平成26年2月3日

元毎日新聞政治部副部長 人口問題調査会事務局長 尾崎美千生
朝日新聞社社友 元「知恵蔵」編集長 堀内正範